

平成27年度学力調査にかかる改善計画

平成27年度「基礎・基本」定着状況調査の重点課題

- ・主語・述語の関係など、叙述の仕方に注意して書くこと、資料から情報を的確に読み取り、根拠を明確にして記述することに課題がある。
- ・資料の活用の領域において、中央値の意味の理解についての問題(タイプI)で、定義の理解や扱いの理解が十分にでないことが課題である。
- ・指定された言葉を使って、圧力に関わる身近な現象を説明する問題の通過率が低かった。圧力の意味が十分理解できていないこと、文章で記述することが苦手なことに、課題があると考えられる。
- ・英語では、長文の読み取りの通過率が低い。長文を読んで、適切に应答する力を身につけさせる必要がある。

平成27年度全国学力・学習状況調査の重点課題

- ・敬語や単語の類別など、語句や文法の理解に課題がある。
- ・証明の必要性と意味を理解している。
- ・学力検査の結果から、基礎的・基本的な知識は、ある程度定着できていると考えられるが、どうしてそのような現象になるかといった、原因を説明したり、根拠を述べたりすることに課題があると考えられる。
- ・質問紙調査の結果から、観察・実験に興味・関心があり、授業でも回数は多く行っているが、観察・実験の方法を自分で考えたり、結果をもとに考察することがあまりできていないことがわかる。

平成27年度標準学力調査結果分析(克服された課題○・現時点での学校としての課題●)

○各教科において「目標(めあて)の揭示」「ドリル学習(小テスト等)」「アンダーライン、囲み学習」を進め、学校全体で「宿題提出100%」を取り組み、学力の定着に一定の効果があつた。

- 国…文学作品、説明的な文章の内容を読み取ること両方に課題がある。文章の表現の特徴をとらえること、文章の展開に即して要旨をとらえたり、まとめたりすることに課題が見られた。
- 社…市平均と比較すると、2年の活用の正答率が低い。
- 数…根拠を明らかにして、証明や説明など文章で表現することが課題である。
- 理…対照実験を設定するなど実験の方法を考えたり、実験をするときの留意点を説明するなどの問題の正答率が低く、課題がある。
- 英…会話などの文章を読みとって、間違いを指摘したり、修正をしたりする問題の正答率が低い。文章を理解することや文章で表現することに課題がある。
- 基礎基本で、30点未満の生徒は、国…0人、数…2人、理…5人、英…3人であった。2年の標準学力テストの30点未満の人数は、国…1人、社…3人、数…7人、理…7人、英…6人であった。2年は、全ての教科で市平均を下回り、基礎基本以降の課題の克服に至っていない。
- 1年の標準学力は、教科によって得点にばらつきがある。30点未満の生徒は、国…1人、社…2人、数…5人、理…3人、英…2人である。
- 学校全体での取組みをさらに進める必要がある。

誤答分析の方法
学校全体での課題と取組の共有の方法

- ・校内研修を持ち、各教科における課題(指導者としての課題、生徒個々の状況)を明らかにし、今後の学校全体の取組みを明確にする。

調査結果(誤答)の児童・生徒への返し方

- ・各教科で個別面談の時間を確保し、一人一人の生徒に課題を伝え、今後克服すべきポイントや学習方法について助言する。
- ・正答率の低かった問題については、後日再度調査問題を解かせたり、解説したりする。

今年度末までの重点取組

- ・各教科で個別面談の時間を確保し、一人一人の生徒に課題を伝え、今後克服すべきポイントや学習方法について助言する。
- ・各教科で、昼休憩や放課後を使って、理解が不十分な生徒に対する補充学習を行う。
- ・各教科で、課題となっている単元等について復習し、学力の向上を図る。
- ・2年については、担任がクラス全員を対象に個別面談を行う(3年に向けた意識づけ、課題の克服へのアドバイス等)。
- ・春休みに1年間の復習ができるように、課題の準備を行い、意欲的に取り組ませるように指導を行う。

来年度の調査に向けた重点取組

- ・分かる授業、楽しい授業の確立…各教科で「分かる授業」「楽しい授業」を工夫する。生徒質問紙で「授業が分かる」と回答する生徒を増やす。
- ・補充学習の実施…小テストや定期試験などで課題が把握できた場合は、昼休憩、放課後を使い補充学習を実施する。定期試験中には、放課後学習タイム(自習)を設定し、個別指導が必要な生徒には重点的に対応する。
- ・各教科における「ドリル学習」「アンダーライン・囲み学習」は継続して実施する。
- ・「宿題提出100%(朝、点検するもの。漢字、英語、自主ノート、3年は新研究も)」は、学校全体として継続して実施する。提出できていない生徒については、昼休憩までにやらせる。
- ・試験結果や観点別評価を細かく分析し、生徒の課題克服に努める。

有効であった30%未満の児童・生徒への学力向上の手立て
・特別支援教育の視点をいかした指導方法の工夫改善(教室環境の整備と「パターン化」「作業化」「視覚化」)